

群星沖縄2007年新研修医と 指導医との大交流会

群星沖縄研修委員会会議議長 城間 寛



群星沖縄プロジェクトについてはこれまでも何回か、県医師会報に取り上げられたこともあるので、詳しく述べる必要はないと思いますが、今回、4月27日に「2007年新研修医と指導医との大交流会」がラグナガーデンホテルで開催されましたので、すこし紹介したいと思います。群星沖縄では2007年度の研修医として、中頭病院：12人、豊見城中央病院：12人、浦添総合病院：10人、沖縄協同病院：10人、中部徳洲会病院：5人、南部徳洲会病院：6人、大浜第一病院：3人で合計58人の新研修医を迎える事になりました。4月26、27日の二日間、群星全体のオリエンテーションを開催し、その二日目の夜に大交流会が開催されました。大交流会では、新研修医58人をはじめ、各7つの管理型病院から、院長、理事長、研修委員長をはじめ指導医、看護部など関係者が一同に会し、

大変にぎやかな交流会となりました。宮城征四郎センター長から、新研修医に対して歓迎の言葉を述べられた後、県福祉保健部長の代理として仲宗根正先生と、県医師会を代表して会長の宮城信雄先生から、群星沖縄プロジェクトの研修医として沖縄で研修を開始する事への激励、そして今後も沖縄で地域医療を担って欲しいとの挨拶を頂きました。その後、各病院ごとに、研修医各自から短いスピーチで自己紹介と、研修を開始するにあつたての抱負を話してもらいました。研修医の半数以上が県外出身で占めており、初めての地での研修開始に少し不安を感じながらも、群星沖縄プロジェクトで研修を開始できる事への大きな期待が述べられ、群星沖縄プロジェクトの指導医として、彼ら58人の新研修医に対して大きな責任を感じたのは、私だけではなからうと思います。次に、群星沖縄プ

プロジェクト参加の管理型、協力型の病院及び診療所の理事長、院長、研修委員長が壇上に上り、研修医や各病院の関係者に紹介されました。管理型で7病院、協力型で20施設が群星沖縄プロジェクトに参加しており、この事業の大きさと、皆によって支えられているという事を実感いたしました。

現在群星沖縄プロジェクトでは、初期研修医(2学年)で114人、後期研修医まで合わせると191人の研修医がこのプロジェクトで学んでいます。沖縄では、県立中部病院がハワイ大学と提携し、研修医教育に関しては全国的にも有名で日本の医師卒後臨床研修のあり方については見本を示してきています。また、琉球大学やその他の県立病院なども卒後臨床研修に積極的に取り組み、沖縄県は研修医とのマッチング率も常に全国的にも上位を示しています。今年3月に行われた群星沖縄プロジェクトの第2回卒後臨床研修終了式に修了者代表が挨拶で述べた中で、沖縄でどうしてこの様に研修医が集まっ

て研修を受けているかという事に、沖縄の「いちゃりばちよーでー(方言)」の精神があるからではないかと話していました。群星沖縄プロジェクトでは選択研修で管理型をはじめ協力型の施設を数多く回って研修する事になりますが、どこの施設でも親切に教えてもらったそうです。他府県で研修している同級生と話しても、沖縄で行われているような、病院間で協力し研修医本位の臨床研修がうまくいっているところはほとんどないようです。群星沖縄プロジェクトのような、病院の垣根を越えて、協力しあう関係が構築できているのは、沖縄の「ユイマール」の県民性がその根底にあるだろうと思います。初期臨床研修の中には地域医療を経験する期間があり、その時には離島診療所や地域の診療所にお世話になっています。これからも、なお、ここ沖縄が、医師卒後臨床研修のメッカになるように、医師会関係の先生には若い医師研修教育について協力を御願ひする次第であります。

原稿募集!

「いきいきグループ紹介」のコーナー
(1,000字程度)

各研究会、スポーツ同好会や模合等の活動紹介などを掲載致しますので、どうぞお気軽にご紹介下さい。